平成27年度　シラバス	学年・期間・区分	３年次 ・ 通年 ・ A群
	対象学科・専攻	留学生
日 本 語 (Japanese language)	担当教員	古川　理沙（Furukawa , Risa）
	教員室	学生共通棟１階 非常勤講師控室（TEL：42-2167）
	E-Mail	
教育形態／単位の種別／単位数	講義 ／ 履修単位 ／ １単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業（45分）〕×30回　　※適宜，補講を実施する	

〔本科目の目標〕　主に話し言葉を中心に、伝えたい内容がより伝わりやすくするためにどうすればよいかを学ぶ。

〔本科目の位置付け〕　高専におけるレポート等の課題に取り組む為の基礎的な日本語力及び、話し言葉における最低限のマナーや書式を理解し、学生生活とその後の日本における社会生活の基礎をつくる。

〔学習上の留意点〕　講義の内容をよく理解するために、毎回、復習をすること。理解状況を把握するために、各学期2回のオーラル（口頭）テストを実施する

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時間数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
１．きっかけを語ろう	4	□ 経緯を分かりやすく説明することができる		各授業内容について、教科書や文献・インターネットを使って、概略を勉強しておく。
２．町の様子を話そう	4	□ 話の構成を考えて話題ごとに話すことができる		
３．スポーツの面白さを伝える	4	□ 全体的なことから個別的なことへと話を進めることができる		
４．言いかえて説明しよう	4	□ 言葉を言い換えて話ことができる。自動詞他動詞を使い分けることができる		
５．比べて良さを伝えよう	4	□ 複数の事柄を比較しながら説明することができる		
６．ストーリーを話そう	6	□ 接続の表現を効果的に使いながら、展開が分かるようにストーリーを話すことができる		
７．最近の出来事についてはなそう	4	□ 引用を効果的に使いながら、感情を伝えて共感を得ることができる		

〔教科書〕　『日本語上級話者への道』スリーエーネットワーク
〔参考書・補助教材〕『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク

〔成績評価の基準〕　平常テスト４回（１００％）-授業態度（最大１０％）

〔本科（準学士課程）の学習・教育到達目標との関連〕　1-a , 2-a
〔教育プログラムの学習・教育到達目標との関連〕
〔JABEE との関連〕
〔教育プログラムの科目分類〕

Memo

平成 27 年度　シラバス	学年・期間・区分	3・4 年次 ・ 通年 ・ A 群
	対象学科・専攻	留学生
日 本 語 (Selective Japanese language)	担当教員	古川　理沙（Furukawa , Risa）
	教員室	学生共通棟 1 階 非常勤講師控室（TEL：42-2167）
	E-Mail	
教育形態／単位の種別／単位数	講義 ／ 履修単位 ／ 1 単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業（45 分）〕×30 回　　※適宜，補講を実施する	

〔本科目の目標〕　日本語能力試験 1 級（N1）の試験範囲である漢字・語彙を中心に、本学で課されるレポート課題や論文、研究発表等を行う際の基礎となる、主に書き言葉に重点を置いた日本語力・表現能力を身につける

〔本科目の位置付け〕　高専でのレポート課題等に取り組む上での基礎。

〔学習上の留意点〕　講義の理解状況を把握するために、単元ごとの小テストを行うので、毎回、復習すること。また、漢字宅習を義務づけ、毎週そのチェックテストを行う。

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時間数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1．第１課	6	□ 同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚え、使うことができる		各授業内容について、教科書や辞書を使って、概略を勉強しておく。
2．第２課	6	□ 同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚え、使うことができる		
3．第３課	6	□ 訓読みを覚え、正しく使うことができる		
4．第４課	6	□ 読みの難しい熟語を覚え正しく使うことができる		
5．第５課	6	□ 発音の同じ語彙の違いを理解し、正しく使い分けることができる		

〔教科書〕　『日本語総まとめ N1』ask
〔参考書・補助教材〕　『日本語能力試験に出る漢字１級』国書刊行会

〔成績評価の基準〕　平常テスト［復習テスト（５０％）＋漢字テスト（５０％）］―授業態度（最大１０％）

〔本科（準学士課程）の学習・育到達目標との関連〕　1-a , 2-a
〔教育プログラムの学習・教育到達目標との関連〕
〔JABEE との関連〕
〔教育プログラムの科目分類〕

Memo

平成 27 年度　シラバス	学年・期間・区分	３・４年次 ・ 通年 ・ A 群
	対象学科・専攻	留学生
日本語・日本事情 (Japanese and Japanese Culture)	担当教員	古川　理沙（Furukawa , Risa）
	教員室	学生共通棟１階　非常勤講師控室（TEL：42-2167）
	E-Mail	
教育形態／単位の種別／単位数	講義 ／ 履修単位 ／ ２単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業（90 分）〕×30 回　　※適宜，補講を実施する	

〔本科目の目標〕　日本語能力を向上させ、日本社会で必要とされるコミュニケーション能力を鍛える

〔本科目の位置付け〕　高専での学習のみならず、日本での社会生活全般の基礎となる。

〔学習上の留意点〕　講義内容をよく理解するために、毎回復習をすること。

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時間数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
１．自己紹介と本当の自分	4	□ 聞取りやすく、印象に残りやすい自己紹介ができる		各授業内容について、教科書や文献・インターネットを使って、概略を勉強しておく。
Unit１	4	□ 日本語能力試験 N1 の文法 13 項目を正しく使えるようになる		
３．ジェンダーを考える	6	□ 男女の違いについて、各国のイメージを比較し、自分の言葉で表現できる		
Unit２	4	□ 日本語能力試験 N1 の文法 13 項目を正しく使えるようになる		
５．心と体のバランス	4	□ 身体や心の状態を詳しく説明ができる		
Unit３	4	□ 日本語能力試験 N1 の文法 13 項目を正しく使えるようになる		
−前期末試験−	2	授業の内容について達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を理解する		
６．働くということ	6	□ 日本の社会生活と自国の違い、日本の就職活動の特徴等を調べ、口頭で発表できる		
Unit４	4	□ 日本語能力試験 N1 の文法 13 項目を正しく使えるようになる		
８．環境のためにできること	6	□ 日本と自国の環境問題の現状や取り組み方の違いを理解できる		
Unit５	3	□ 日本語能力試験 N1 の文法 13 項目を正しく使えるようになる		
Unit６	3	□ 日本語能力試験 N1 の文法 13 項目を正しく使えるようになる		
Unit７	4	□ 日本語能力試験 N1 の文法 13 項目を正しく使えるようになる		
−後期末試験−	2			
試験答案の返却・解説	2	授業の内容について達成度を確認する 試験において間違えた部分を理解する		

〔教科書〕　『新・生きた素材で学ぶ　中級から上級への日本語』the Japan Times
『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニング N1』アルク

〔参考書・補助教材〕　『新・生きた素材で学ぶ　中級から上級への日本語　ワークブック』the Japan Times

〔成績評価の基準〕　期末試験成績（６０％）＋　発表（４０％）-授業態度（最大１０％）

〔本科（準学士課程）の学習・教育到達目標との関連〕　1-a , 2-a , 4-b

〔教育プログラムの学習・教育到達目標との関連〕

〔JABEE との関連〕

〔教育プログラムの科目分類〕

Memo